

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第8週の発生動向

□ 全数報告の感染症（8週までに新たに届出のあったもの）

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 6 例。3 類感染症：報告なし。
- 4 類感染症：A型肝炎 3 例。5 類感染症：百日咳 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	50 歳代	女	無症状病原体保有者	—
			60 歳代	女	肺結核	咳、呼吸困難
			60 歳代	男	無症状病原体保有者	—
			60 歳代	男	結核性胸膜炎	右胸水(血性)
			80 歳代	女	肺結核	発熱、呼吸困難
		都城	80 歳代	男	肺結核	咳、痰
4類	A型肝炎	宮崎市	20 歳代	男	無症状病原体保有者	—
			30 歳代	女	—	全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常
		都城	20 歳代	女	—	全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常
5類	百日咳	宮崎市	30 歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み、スタッカート、ウープ、嘔吐

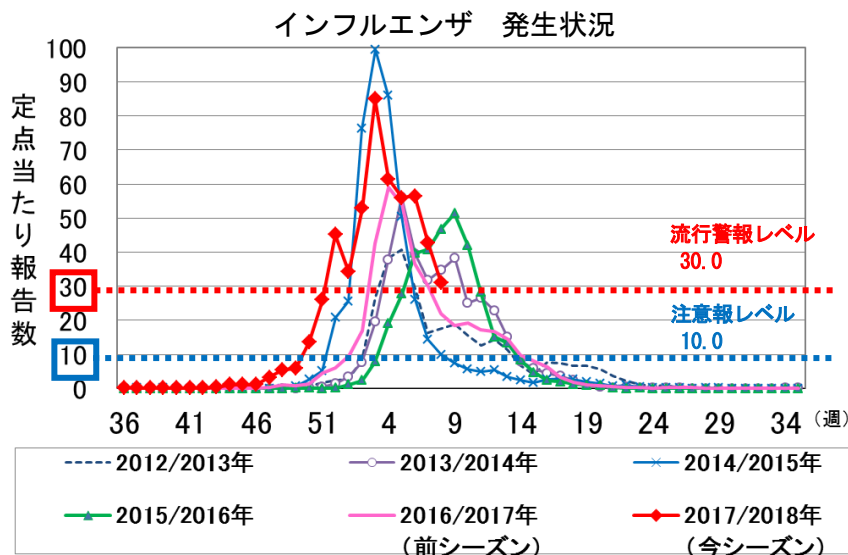
□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は2,439人(定点当たり51.0)で、前週比85%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎(ロタウイルス)で、減少した主な疾患はインフルエンザである。

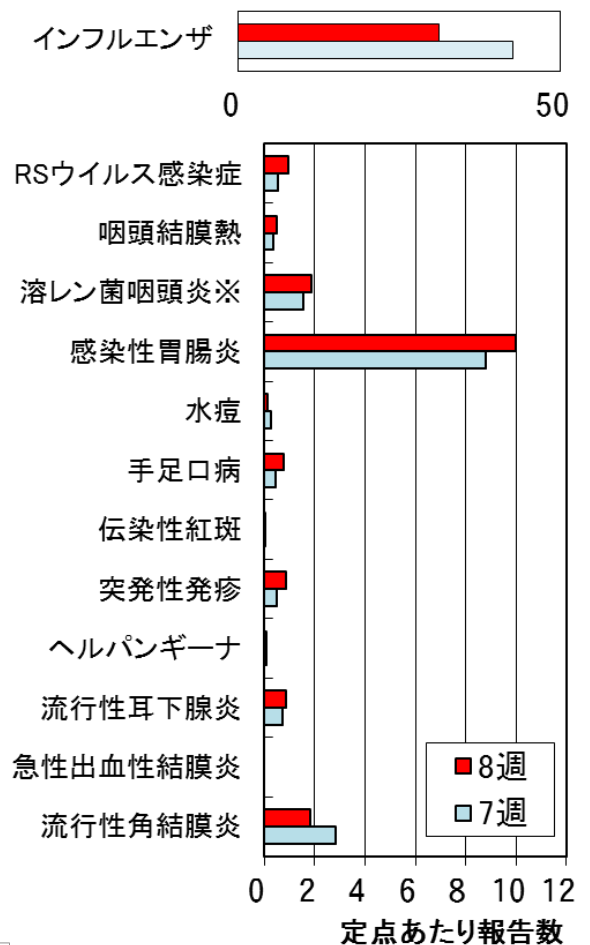
★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

報告数は1,839人(31.2)で、前週比73%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値*(26.6)の約1.2倍である。小林(48.2)、都城(37.2)保健所からの報告が多く、年齢群別は10歳未満が全体の半数以上を占めている。



《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

★基幹定点からの報告★

○感染性胃腸炎(ロタウイルス) :

報告数は14例で、日向(11例)、高鍋(3例)保健所からの報告であった。0～4歳が12例、5～9歳が1例、10歳代が1例で、病原体の群別は不明である。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ ² (28.3)
都城	インフルエンザ ² (37.2)
延岡	インフルエンザ ² (32.9)
日南	インフルエンザ ² (31.4)、流行性耳下腺炎(9.3)
小林	インフルエンザ ² (48.2)
高鍋	インフルエンザ ² (33.5)
高千穂	インフルエンザ ² (20.0)
日向	インフルエンザ ² (19.3)
中央	インフルエンザ ² (15.0)

* 流行警報レベル開始基準値*

・インフルエンザ(30.0)

・流行性耳下腺炎(6.0)

* 流行注意報レベル基準値*

・インフルエンザ(10.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成30年2月26日までに検出)

★細菌 報告なし。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
インフルエンザウイルスAH1pdm09	5～9歳	男	2018.01.09	インフルエンザA型、39.1℃、 下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2018.02.23
インフルエンザウイルスAH1pdm09	5～9歳	男	2017.12.13	インフルエンザA型、40.0℃、 上気道炎(扁桃炎)、幻覚	鼻汁	2018.02.23
インフルエンザウイルスB (山形系統)	5～9歳	男	2018.01.10	インフルエンザB型疑い、39.0℃、 頭痛、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2018.02.23
インフルエンザウイルスB (山形系統)	0～4歳	女	2018.01.11	インフルエンザB型、39.6℃、 上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2018.02.23
インフルエンザウイルスB (山形系統)	50歳代	女	2018.01.09	インフルエンザB型、発熱、頭痛、 上気道炎(咽頭炎、咽頭痛)	鼻汁	2018.02.23
インフルエンザウイルスB (山形系統)	0～4歳	女	2017.12.13	インフルエンザB型、39.7℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2018.02.23

○インフルエンザと診断された6名からインフルエンザウイルスが分離された。全国的にインフルエンザの報告数は減少しつつあるものの、依然として流行は続いているため、手洗い・うがい等の予防策をとることが重要である。

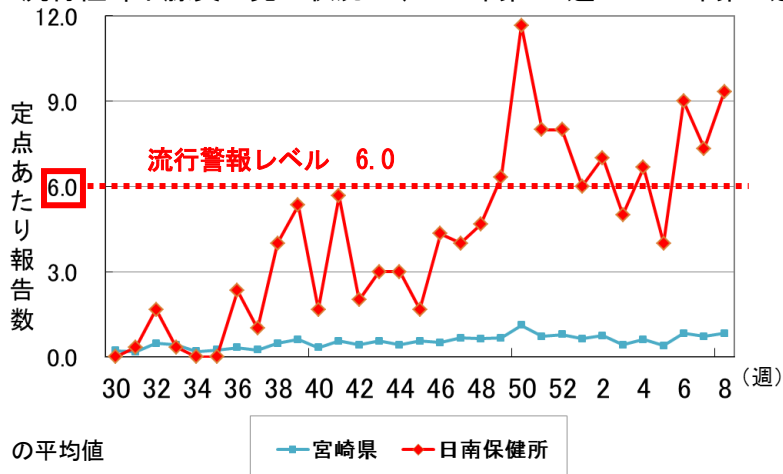
□トピックス

・流行性耳下腺炎(小児科定点把握となる5類感染症)

日南保健所からの報告が多い状況が続いています。

報告数は30人(0.83)で、前週比115%と増加し、例年同時期の定点あたり平均値*(0.82)の102%である。また、日南(9.3)保健所からの報告が多い状況が続いている。2017年38週から2018年8週までの累計の年齢群別は3～7歳が約7割を占める。

流行性耳下腺炎 発生状況 (2017年第30週～2018年第8週)



* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

✚ 全国 2018 年第 7 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 7 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	270 例				
3類感染症	細菌性赤痢	9 例	腸管出血性大腸菌感染症	12 例	腸チフス	1 例
	パラチフス	1 例				
4類感染症	E 型肝炎	5 例	A 型肝炎	10 例	デング熱	1 例
	マラリア	1 例	レジオネラ症	11 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	10 例
	急性脳炎	9 例	クリプトスポリジウム症	2 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10 例	後天性免疫不全症候群	11 例	ジアルジア症	2 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	48 例	水痘（入院例）	4 例
	梅毒	61 例	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例
	百日咳	27 例	風しん	2 例	麻しん	1 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 69%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患はインフルエンザと A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎である。

インフルエンザの報告数は 146,774 人(29.7)で前週比 65%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値* (24.4)の約 1.2 倍である。沖縄県(56.7)、高知県(45.8)、宮崎県(42.7)からの報告が多く、年齢群別では 10 歳未満が全体の約半数を占めている。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2018年 第08週(02月19日～02月25日)

疾病名		第7週	第8週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2518	1839	452	372	230	157	241	201	40	116	30
	定点あたり	42.68	31.17	28.25	37.20	32.86	31.40	48.20	33.50	20.00	19.33	15.00
RSウイルス 感染症	報告数	19	34	12	2		1		9		6	4
	定点あたり	0.53	0.94	1.20	0.33	0.00	0.33	0.00	2.25	0.00	1.50	4.00
咽頭結膜熱	報告数	13	17	7	2	1	1		5		1	
	定点あたり	0.36	0.47	0.70	0.33	0.25	0.33	0.00	1.25	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	56	67	17	10	22		1		1	11	5
	定点あたり	1.56	1.86	1.70	1.67	5.50	0.00	0.33	0.00	1.00	2.75	5.00
感染性胃腸炎	報告数	316	360	51	54	66	46	47	11	7	65	13
	定点あたり	8.78	10.00	5.10	9.00	16.50	15.33	15.67	2.75	7.00	16.25	13.00
水痘	報告数	9	4	1			1		2			
	定点あたり	0.25	0.11	0.10	0.00	0.00	0.33	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	16	28	9	2		8		9			
	定点あたり	0.44	0.78	0.90	0.33	0.00	2.67	0.00	2.25	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	1	1					1				
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	18	31	12	5	8	2	1		1	2	
	定点あたり	0.50	0.86	1.20	0.83	2.00	0.67	0.33	0.00	1.00	0.50	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	3	3				1	2				
	定点あたり	0.08	0.08	0.00	0.00	0.25	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	26	30		1		28				1	
	定点あたり	0.72	0.83	0.00	0.17	0.00	9.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜 炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	17	11	7	3	1						
	定点あたり	2.83	1.83	2.33	1.50	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	9	14						3		11	
	定点あたり	1.29	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00		11.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2018年第1週～8週)

2類感染症	結核	30例(6)			
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	12例(3)	つつが虫病 1例
	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3例	急性脳炎 4例
5類感染症	後天性免疫不全症候群	4例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症 11例
	播種性クリプトコックス症	1例	百日咳	10例(1)	

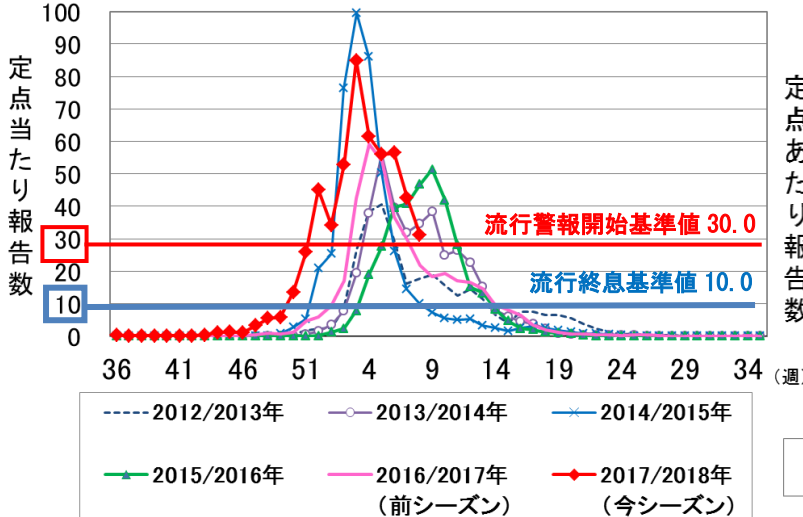
()内は今週届出分、再掲

インフルエンザ情報 《県内第8週、全国第7週（再掲）》

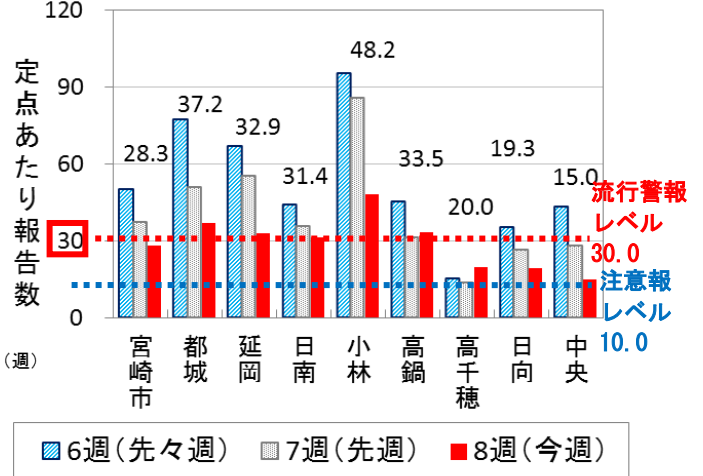
□ 県内第8週インフルエンザ発生動向

2018年2月19日～2月25日までの1週間で1,839人（31.2）の報告があった。前週の約0.7倍と減少したが、例年同時期の定点あたり平均値*（26.6）の約1.2倍である（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の20%、5-9歳が32%、10-14歳が16%、15-19歳が4%、20-59歳が19%、60歳以上が9%を占めている（図3）。

（図1）インフルエンザ発生状況



（図2）インフルエンザ保健所別推移（3週分）

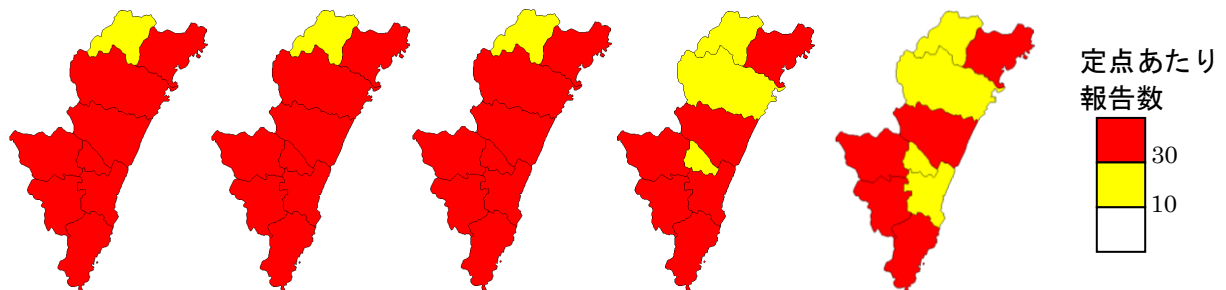


（図3）年齢群別割合の推移（2018年第4週～第8週）

週	報告人数	5歳未満	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～59歳	60歳以上
4週	3,629人	20%	34%	20%	5%	14%	7%
5週	3,305人	19%	36%	21%	5%	14%	5%
6週	3,334人	20%	35%	21%	5%	14%	5%
7週	2,518人	19%	31%	19%	6%	17%	8%
8週	1,839人	20%	32%	16%	4%	19%	9%

□ 5歳未満 □ 5～9歳 □ 10～14歳 □ 15～19歳 □ 20～59歳 □ 60歳以上

保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2018年第4週～第8週



2018年4週 (県全体 61.5) 2018年5週 (県全体 56.0) 2018年6週 (県全体 56.5) 2018年7週 (県全体 42.7) 2018年8週 (県全体 31.2)

□ 全国第7週インフルエンザ発生動向

2018年2月12日～2月18日までの1週間で146,774人（29.7）の報告があり、前週の約0.7倍と減少した。沖縄県（56.7）、高知県（45.8）、宮崎県（42.7）からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が全体の19%、5-9歳が28%、10-14歳が17%、15-19歳が5%、20-59歳が22%、60歳以上が9%である。